

令和3年度第2回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和3年6月15日（火）午前9時30分から10時55分

と ころ：市役所5階 505会議室（WEB会議）

1 出席者

小平市社会教育委員	10名
傍聴者	2名

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会（報告）
- (2) 令和3年度第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和3年度非核平和学習事業「原爆写真パネル等展示」

【公民館】

- (1) 令和2年度 小平市立公民館事業実績

【図書館】

- (1) 令和3年度こだいら子ども読書月間（報告）
- (2) 令和2年度 小平市立図書館事業統計

<その他>

- (1) 公共施設マネジメントの取組状況について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

<事務局報告>

【地域学習支援課】

○令和3年度非核平和学習事業「原爆写真パネル等展示」

委員 「原爆写真パネル等展示」では、この中に記録映画、アニメ等の上映があるとのことであるが、子どもたちにとって平和教育の一環でもあると考える。学校に貸出ができるようになれば有難い。検討していただきたい。

事務局 広島平和記念資料館から毎年度アニメ及び映像のDVDを借用しており、内容を少しずつ変えながら事業を行っている。広島に限らず、何か貸出できるようなものが確認できれば、連絡する。

委員 小・中学生広島平和学習では、今年も式典に参列できないということで中止になって大変残念である。実際に参加申込みがあったのか。

事務局 小・中学生に募集を行ったところ、50人以上の申込みがあった。広島市において今年度も平和記念式典における自治体枠の参加中止の発表を受け、やむを得ず中止とした。

委員 戦後70年以上経過し、若い世代の方が戦争や原爆について学び、それを次の世代に繋げていこうという取組は素晴らしいと思う。例えば大空襲についても何か取組を行っていることがあれば、そちらも紹介する場であっても良いと思う。

委員 被爆者の声について、これから益々被爆の体験者は高齢になる。学校に携わっていた際に被爆体験者の手記を紹介するという授業を受けた。直接の被爆者ではなくとも、間接的に話ができる方がいるのではないか。

事務局 実際に被爆を体験された方は年々高齢化が進んでいるため、次の世代が被爆体験者の話を引き受けて語り継いでいくという「語り部」の取組を行っている。原爆被害者の会の方とも相談しながら今後は実施していきたい。

○姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業

委員 今年度の小平町との交歓交流事業はどうなったのか。

事務局 今年度については、小平市の子どもたちが小平町に行って交歓交流する予定であったが、実際に現地に行く交流はしない。来年度に向けて何か交流できることはないかを検討しているところである。

【公民館】

○令和2年度 小平市立公民館事業実績

委員 小川西町公民館の講座「不登校・引きこもりを考える」では、このような講座が自主サークル化したことは地域にとって非常に有難く、重要で貴重なものと考えている。何か工夫や特別なものがあったのか。またどういった活動をされているのか。

事務局 小川西地区にある小平第二中学校において、スクールカウンセラーと不登校に

関わりのある保護者が話し合う「ぷらっと親の会」という取組を独自に行っている。その会場が小川西町公民館であった。昨年度初めてこの講座を立ち上げた際に「ぷらっと親の会」の方の協力もあり、順調に活動が進んだという経緯である。今後は、不登校の方だけではなく、「ひきこもり8050問題」においてもこの取組を上手く繋げていきたい。

委員 講座・学級は中央・各分館で全113コース中、62コース行われている。人数制限をかける等大変苦勞して開催したのではないかと推測するが、文部科学省から半分以上行うようにとの指示を受けて開催したのか。

事務局 昨年度5割以上の事業を行うことができたが、文部科学省から指示を受けたものではない。緊急事態宣言で休館を余儀なくされ、職員間で何とか実施できないかと取組を行った結果の開催数である。

委員 近隣市でオンラインイベントやそれをサポートするイベントが開催されているようである。小平市でもオンラインイベントを利用した新たな事業形成等、視野に入れていただきたい。

事務局 デジタルデバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人とできない人の間に生じる格差）を解消するために初心者向けのパソコン講座、スマートフォン、タブレットの講座を数週間毎週開催しており、大変好評である。今後も進めていく。

委員 アンケート調査結果で、70歳代・80歳代以上の方の回答率が全体のおおよそ5割を占めている。高齢者の方が公民館を利用しているのが顕著であった。

委員 緊急事態宣言の公民館の施設利用について疑問を感じる。特にソーシャルディスタンスを保てないサークル活動はもう少し自粛してもらうようにできないか。

事務局 公民館利用の際にはチェックシートを事前に記入し、マスクの着用等を厳守している。各々のガイドラインを必ず守り、活動をしていただいているところである。

【図書館】

委員 昨年の緊急事態宣言時には全て閉館となり、非常に寂しい思いをした。昨年の会議でせめて予約本の貸出の対応をして欲しいと発言した記憶があるが、今回の緊急事態宣言ではその辺を上手く行っていただけて有難いと感じた。

委員 大学の図書館でチャットによる問合せのようなものの導入を検討しており、そういうソフトが出ていると耳にした。それに伴いAIによるFAQ（頻りに尋ねられる質問と回答）を使用した動きが出ている。市ではそのような取組、計画などはあるのか。

事務局 現時点でAI等に関する取組はない。一番の課題は電子図書館の導入である。調査研究を進めていく。

委員 「中央図書館子ども大抽選会～みんなで数字を予想しよう」という参加型のイベントはコロナ禍で行事の中止が多い中、子どもたちにとってわくわくするような楽しいものであったと思う。子どもたちが図書館に足を運ぶ回数も増えると考えられるため、参加型のイベントをできる範囲で増やしていただきたい。

委員 予約をして図書館へ入館するというように対応していた図書館もある中で、市では人数制限をする必要はなかったのか。

電子書籍はこれから本当に必要になる。

事務局 予約制とした都立図書館等と比較すると、市町村立の図書館は利用者の身近にあることから、ふらっと立ち寄る、思い立って訪れるというような利用実態がある。予約を受けるとなると事務的にも煩雑になることが考えられるため、そういった対応はしてこなかった。

電子書籍については令和3年度までに他区市で導入がかなり進んでいる状況があり、市でも研究を進めていく。

○令和3年度こだいら子ども読書月間（報告）

委員 「読書ノート」の配布について、どの程度配布したのか。

事務局 印刷したものを図書館のカウンターで配布する形と、同じものをホームページでも掲載していたので自宅で印刷して使用していただいた形と二パターンある。図書館カウンターで用意したものに関してはほぼ配布した。

委員 「おうちで楽しむ、春のブック福袋」はどのぐらいの子どもたちや家庭がもらっているのか。

事務局 花小金井図書館で行っていた事業であるが、緊急事態宣言を受けて休館となり、途中で中止となった。「読書ノート」同様に好評で、用意したものについては全て配布したところである。

<その他>

特になし。